

## 2010 年度春学期 チューター業務を振り返って

所 属	社会学部	社会学研究科	学科 社会学専攻
担当科目	ファーストイヤーセミナー		

<春学期を振り返ってのまとめ 仕事内容・気づいたこと・感想 など>

仕事の内容は、一回生たちが書いたレポートを読んで、コメントを付けました。大学に進学したばかりの学生たちが、今どのような本を読んで、どのようにレポートを書いているかについて触れるようになりました。さまざまな学生たちが自分なりの個性を生かして書いたレポートを読みながら、私も今の自分の状況に合わせて、レポートを書きたくくなりました。みんなが書いたレポートを読んで、また授業中に先生と一緒に一人一人が書いたレポートの内容について解釈していく中で、私にいいレポートを書きたくなるモチベーションをもたらしてくれました。

気づいたこと：この授業は、主にレポートの書き方について講義がおこなわれました。一番印象に残るレポートは、小集団の社会学の話でした。今在籍している大学をひとつの小集団にして、自分の存在をその中の一員として、さまざまなことを習いながら、成長していく内容でした。また、いろいろな友達に出会って、コミュニケーションを通して、人間関係をうまくするための話も出てきたのでさらに面白かったです。興味深いレポートでした。

感想：授業はレポートのこと以外に、またディベートも行いました。みんなで、自分好きなテーマを選んでチームを作って、その内容について議論したもとの、ディベートを行いました。まだ、一回生なのに、政治のことについて詳しく話している姿をみて、感服しました。一つのテーマが出てくると、みんなが盛り上がり、ディスカッションをしていたので、とても楽しい授業でした。また、先生の立場になって、学生たちのことを考えるようになりました。さらに先生になっているお気持ちを読めることができました。

チューターの業務を通して、小さいことでも周りの一人一人に対して気を配り、コミュニケーションを通すと、さらに親しくなることを肌で感じました。

<今後のチューターまたは先生への提案>

今後も続けてチューターをやりたいです。学生の立場と先生の立場の間のポジションに立って、周りを見回りながらうまくチューターをやっていきたいと思います。

先生にはもっと助かるように、学生たちにはもっと必要な存在になるようにがんばって行きたいと思います。

ファーストイヤーセミナーを通して、レポートの書き方とディベートの行い方について、さらに勉強になりました。また、今一回生たちの考え方についても触れるようになりました。本当に面白くて、楽しい授業でした。

2010 年度春学期 チューター業務を振り返って

所 属	社会学部	社会	学科
担当科目	ファーストイヤーセミナー 社会学科		

<春学期を振り返ってのまとめ 仕事内容・気づいたこと・感想 など>  
 (仕事内容) 主に、授業への出席、受講生への質問に回答、レポートのコピー等

(気づいた点) 最初の頃には、生徒間のコミュニケーションが不活発なのが気になったが、何度かの授業を通して、意見交換しやすい雰囲気形成されていった点は評価できる。レポートなどを見てみると、まだまだ調べ不足や、論理の一貫性、主張が不明瞭などの点が気になった。

受講生を見て思ったのは、もっと好奇心や探究心を持って欲しいということである。特に社会学をいう学問においては、幅広いものの見方が必要になる。だから、文系と理系のバランスがとれていない人を見ると、非常に不安になる。あるいは西洋と東洋への理解のバランスについてもである。例えば文系の素養のみでしか世界を見ていない人は、相対性理論やオイラーの公式の詩的美しさに接することができないだろうし、理系の素養のみの方は源氏物語における絢爛な世界や、カント哲学における強固な理論体系に裏づけされた観念論を体験することができないだろう。極言すれば世界の半分しか見ていないことになる。一つの学問から一つの見方で見るとは、思考が硬直し頑迷になる。

私はこのような頭の固さを解きほぐしてほしいためソーシャル事件を取り上げ、生徒に紹介した。受講生が私の意図を少しでも感じ取ってくれば幸いである。

(感想) 上述したようにもっと好奇心や探究心を持って欲しいや、文系と理系の素養の重要性を説いたが、私自身もそれほど偉そうなことを言える立場でない。自分の経験と照らし合わせてみても、ラカンに挫折したり、数式の意味が全く理解できないやで生半可な理解に陥ることもある。しかし読書百遍意おのずから通ずと言うように、どんなにわからない文章でも反復すれば必ずわかってくるのである。そもそも簡単に会得できるような学問は学問ではない。

高校で教えられる知識というのは、生徒が理解できる、わかるという前提で教えられている。しかし大学では、そのような枠組みは取り除かれる。これから様々な問題に立ち会うだろうが、臆せず本気で取り組んでほしいと切に願う。

最後になるが自分自身もチューター業務を通して、とても勉強になった。特に石坂先生が、あらゆるテーマに対して的確にコメントをされていたのには、教養の差というものを痛感した。まだまだ精進しなければ、と感じた。

今後も機会があれば是非チューターをしたいと思った。

<今後のチューターまたは先生への提案>

先生への提案となってしまうが、もっとチューターを利用してほしかった。授業以外の時間にも打ち合わせや今後の方向性などを話し合いたかった。自分としては単なる授業の補助として消化するのではなく、積極的に授業にコミットしていきたいからである。

そのため少し専門性の高い授業へのチューターの配置をお願いできたらと思う。例えばその授業に対する付随的知識などの教授、その他の参考文献の紹介、補足説明等は、チューターに任せるなどして欲しい。

こうすることで先生からの知識供与に留まらず、チューターからの知識なども合わさりあって、受講生に創発性を促せるのでは、と思う。

もちろんこれらを達成するためにはチューター自身に対しても幅広い知識が要求されるが、本気で取り組みたいチューターに対しては、それ相応の授業へのコミットを許していただきたい。

2010 年度春学期 チューター業務を振り返って

所 属	社会学部	社会	学科
担当科目	ファーストイヤーセミナー		

<春学期を振り返ってのまとめ 仕事内容・気づいたこと・感想 など>

仕事内容は主に、授業補助とディスカッションへの参加でした。ファーストイヤーセミナーでは、まずは論文や文献の調べ方、レジュメの作り方、発表の仕方、レポートの書き方など基礎的なことを身につけることが第一の目標だと思います。今回のクラスでは、それに加えてインタビュー調査を行ったので、メールでの調査依頼文の作成やインタビューの流れ、お礼メールなど最低限のマナーを学ぶこともできました。レジュメや発表などは決まりきったやり方はないので、最低限のルールを教えて、あとは実際にやってみながら自分たちで考えたり相談したりして改善していくと、効果的に身に着くように思いました。

授業内容は、大学生の就業観についてのインタビュー実施や、職業的社会化について考えるというものでしたが、1回生の視点からの疑問や考えを聞くことは新鮮で、改めて自分のことについて考えるきっかけにもなりました。インタビュー調査も初めてで緊張やトラブルも多少あったと思いますが、それぞれの班がしっかりと聞き取った内容をまとめ、おもしろい報告が聞けてよかったです。

ゼミや実習がない1・2回生はどうしても大教室・大人数の講義で受動的に授業を受けてしまうことが多いので、ファーストイヤーセミナーの様に少人数で発表したり発言したりする機会がある授業は貴重だと思います。大教室では先生との距離も遠く、同学年で仲のいい友達以外と接する機会が少なくなりますが、小教室ではちょっとした疑問でも質問でき、普段関わらない人と班になり、チューターの上回生と関われる環境があるので、1回生にとっていい機会だと思います。また、4回生である私にとっても、普段1回生と関わる機会が少ないのでいい刺激になりました。

至らない点もあったかもしれませんが、チューターとして毎週とても楽しく授業に参加させていただきました。

<今後のチューターまたは先生への提案>

授業中に発言する学生に偏りがあったことが少し残念に思いました。発言が少なくてもいい意見を持っている人もいると思うので、できるだけ全員で議論を進められたらよかったです。

2010 年度春学期 チューター業務を振り返って

所 属	社会学部	社会	学科
担当科目	ファーストイヤーセミナー		

<春学期を振り返ってのまとめ 仕事内容・気づいたこと・感想 など>

仕事の内容は、社会学科の先輩としてのアドバイスをしたり、留学生の作成したレポートを添削したりでした。1 回生のうちにやるべきことや、こういうことをしておいた方がよかったという私なりの経験から伝えられることを伝えました。

私のチューターのイメージは、資料を印刷して、配布して、集めてという作業だったのですが、ファーストイヤーセミナーで、人数も少なかったため、先生がしてくださっていました。もうすこし、お手伝いができればと思っています。

チューターをしてみて、私自身が勉強になったことがたくさんありました。先生の授業を聞かせていただいたという立場だったように思います。

1 回生のみんなの頑張りや成長をみることができ、とても良い経験になりました。

<今後のチューターまたは先生への提案>

私自身がもう一度チューターをするなら、もっと先生の役に立てるように、率先して仕事を探します。そして、生徒のみんなと先生との架け橋になるように積極的にかかわっていきます。チューターをする上で、この 2 点が大切だと思います。

2010 年度春学期 チューター業務を振り返って

所 属	社会学部	社会	学科
担当科目	ファーストイヤーセミナー（社会学科），地域社会学		

<春学期を振り返ってのまとめ 仕事内容・気づいたこと・感想 など>

先生方のサポートをすることに、最初は気楽な気持ちで始めました。しかし、実際にチューター業務を開始してみると大変で、仕事がこんなにもあるのかと驚きの気持ちでいっぱいでした。時間が経過するにつれてその仕事量にも慣れてきました。仕事内容としては授業資料作成がほとんどでしたが、コピーと製版・印刷の違いを知ることができたので、これは社会に出ても役立つなと思います。

実際の授業では、先生の質問に対してはよく答えました。しかしながら、学生さんのほうから質問を受けることがあり、そのときに焦ってしまって答えられなかったり、知らない内容を尋ねられたりして、正直困ってしまったことが何度かありました。もう少し、先生とのコミュニケーションを図っておいて、学生さんの疑問に答えられるようにしておけばよかったなと反省しています。また、もう少し自発的にサポートしようと思うべきだったかとも思います。最後のほうの授業では、学生さんとも触れ合う機会があって、大変楽しかったです。やはり、3 回生にもなって自ら動かないというのは、これからのことを考えるとよいものではないと思います。私には積極性が足りないということに、改めて気付くことができました。

今回、春学期の間だけでしたが、チューター業務をさせていただいて、社会で役立つスキルを身につけられたのではないかと思います。それは、先生方に対する礼儀であったり、前述した事務的な作業であったり、様々です。先生方と他の学生さんよりも近い距離で接することで、一社会人でいらっしゃる先生方から社会的スキルを身につけられたのは、これからの就職活動で決して無駄にはならないでしょう。

普段とは違う環境に入ること、社会人として出た際に使うことのできるスキルと、自らの欠点を発見することができました。では長所は発見できなかったのかと言うと、そういうわけでもなく、分からない問題に対して積極的に向かっていく姿が自分にあることに気付きました。ただ、人見知りの性格なので、他の人に対して積極的に向かっていければと思います。

今回、短い間でしたが、非常に貴重な体験をさせていただいたと思っています。

<今後のチューターまたは先生への提案>

最初は分からないことばかりですが、質問をすれば先生方は快く答えてくれます。できないことがあったり、分からないことがあったりした場合は、勝手に自分でするのではなく、きちんと質問をしなければなりません。もしかしたら、勝手な行動が大きな失敗につながる恐れがあるからです。しかし、失敗を恐れていても何も始まりません。きちんとすべきところはきちんと、緩めていいところは緩めて、自分のよさを出して行って欲しいと思います。

## 2010 年度春学期 チューター業務を振り返って

所 属	社会学部	社会	学科
担当科目	ファーストイヤーセミナー・社会学概論		

<春学期を振り返ってのまとめ 仕事内容・気づいたこと・感想 など>

ファーストイヤーセミナーの授業では、主に生徒のサポート役を担当させていただきました。主な業務は、生徒からの質問への対応、マニュアルの作成などです。このクラスの授業内容は主にレポートの作成方法についてで、先生が基本から丁寧に教えて下さいました。恥ずかしいことに私も知らない内容が多々あり、生徒とともに学ぶことも多かったです。

ファーストイヤーセミナーの授業は、少人数ということもあり生徒との距離がとても近く、最後には気軽に話せる仲になっていたように思います。個人的に「ここがわからないのですが、アドバイスを下さい」といったメールが来るなど、生徒たちから頼られていると感じた時はそれがとても嬉しく、モチベーションになりました。

社会学概論の授業では、主に提出されたレポートへのコメント作成の業務をさせていただきました。授業内容はその名の通り「社会学概論」。社会学とはなにか、社会学における基本的な考え方を学びました。

他人のレポートを読んでコメントを作成するといった作業は経験したことがなかったので、始めは戸惑いましたが、何度もこなしていくうちに徐々に慣れていきました。この作業を通して学ぶことも多くありました。たとえばレポートに注意すべき点があった場合には、「自分がレポートを書くときにこのようなミスはなかっただろうか」と考え、レポートから得るものがあつたとき「ここは参考にしよう」と考えました。こうして自分を見直し、知識を吸収していくことができました。提出されるレポートに関しては、授業が進むにつれ、より質の高いレポートが提出されるようになってきたように感じます。

チューターの仕事を始めた当初は、なにをすればよいかもわからず戸惑うこともありましたが、最後には自分から能動的に動くことができるようになっていました。また、チューターの経験を通して得たものも多く、機会があれば是非またやってみたいと思っています。

短い間でしたが、お世話になりました。ありがとうございました。

<今後のチューターまたは先生への提案>

社会学概論の授業では、講義期間中に4回のレポートを提出するという課題が生徒に課されましたが、最後の授業で4回のレポートを同時に提出する生徒も多く、授業が終わりに近づくにつれ、チューターの負担が大きくなっていました。なので、チューターにコメントの作成を任せられる場合には、レポートの提出期限を2度に分けて設けるなど（たとえばいつまでに2回の提出、いつまでに次の2回を提出するといったように）の工夫をしていただければ、チューターの負担は軽減すると思います。そうすればレポートに添付するコメントの質もより良いものになると思います。